

IOC 複合フローリング施工説明書その①

--- 小根太入り温水マット式床暖房の場合 ---

作業の流れ

① 下地処理→②仮並べ→③釘・糊接着→④施工→⑤施工後の注意点→⑥その他の注意点

① 下地処理

- 床暖房パネルの上に 12mm 厚以上の耐水合板を捨て貼りしてください。
捨て貼り合板は千鳥に貼り、少し目透しして床暖房パネルの小根太部分に釘止めしてください。
温水パイプの位置を合板に記しておき、フローリングの釘を誤って温水パイプに打たないように注意してください。
- 下地合板は糊釘併用で固定して下さい
- 含水率は 12%以内にして下さい
- 大引は 90mm (3 寸) 角以上、根太は 45mm 角以上の乾燥材をご使用下さい
- 大引の間隔は 909mm (3 尺)、根太の間隔は 303mm (1 尺) として下さい
- 床を木口継ぎにする部分の下に必ず小根太がくるようにして下さい
- 床下の湿気による突上げと腐れ防止のため、床下には必ず建築基準法に基づく通風口 (5m以内に 300cm²以上) を設けて、風通しをよくして下さい
- 雨濡れなどの湿った状態の下地には施工しないで下さい
- 下地の不陸は 1.5mm 以内に段差が無いよう調整して下さい

② 仮並べ

- 弊社のフローリングは天然木を使用しているため、杳理や色に違いがあり、必ず仮並べをして全体のバランスを確認して下さい
- 特に気になる杳理や色が入った材料は、目立たない場所に貼る等の工夫をして下さい
- フローリングの貼り方向は、温水マットの釘打ち部と直行するようにして下さい。
温水マットとタミー合板の継ぎ目が床材の継ぎ目と重なるようにして下さい
- 縦方向の継ぎ目が必ず小根太の上に来るように施工して下さい

③ 釘/接着剤

- 施工は必ず釘とウレタン系接着剤を併用して下さい
- 接着剤は捨て貼り合板に全面塗布して施工ください。釘は温水パイプを傷つけないように、小根太の部分で留めてください。

※推奨接着剤 通常・・・コニシ KU928

湿度の高い環境の場合・・・コニシ E350

④施工上の注意点

- 貼る床材の大きさに合わせて下地に接着剤を塗布して下さい
- 床材をまず圧着して下さい
- 製品の施工仕上寸法は巾 120mm、長さ 909mm です（20.06.10 シリーズのレギュラーサイズの場合）
- 釘の打ち込み角度は 45 度から 60 度で、打ち込み深さ調節は頭部が残らないか僅かに埋まる程度にして下さい
- 頭部が残った場合はポンチで打ち沈めて下さい
- 貼りじまいは、床材をはめ込む前に精寸にカットし、収まりを確認して下さい。また、壁との間に必ず 2mm から 3mm の隙間を空けて下さい
- 巾木がある場合：巾木は必ず後付けにして下さい
- 接着剤が硬化するまで（24 時間以上）、上に乗らないで下さい

⑤施工後の注意点

- 床暖房システムの運転は、施工完了後 2 日以上養生の後に開始して下さい
- フローリングの表面に擦り傷が付かないよう養生シートを敷き、床用養生テープで止め、その上にダンボールや合板を敷いて養生して下さい
- 養生テープは接着が弱いテープを使用して下さい。長期間接着を続けると、糊残り、変化、またはフローリング表面の塗装面にテープが付着するので、注意して下さい
- 貼った後の、養生シートの上には物を置かないで下さい。また、足で踏まないで下さい
- 室内の換気は十分に取って下さい。特に夏場の高温度や冬場の急激な暖房にもご注意下さい
※自然塗装仕上げ商品の場合は、別紙「自然塗装仕上げフローリングの取り扱いに関する注意事項」をご覧ください
- 養生が不十分ですと表面や木の目に埃やチリが残り、通常のクリーニングでは取れなくなる事があるため、特に色の濃い商品の養生には十分ご配慮下さい

⑥その他の注意事項

- 床材は開梱後すぐに施工して下さい。雨濡れしたものは使用しないで下さい
- 下地は濡れや湿気のないことを確認の上ご使用下さい
- 雨天など湿気の高い天候下では施工を控えて下さい
- 床下の風通しをよくして下さい
※風通しが悪いと湿気が高くなり、床材の盛り上がり、腐れなどの原因となる事があります



アイオーシー株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山 6-10-18 トライアングル南青山ビル B1F

〒461-0004 名古屋市東区葵 1-6-7-3F TEL : 052-931-3337

FAX : 052-930-3502